



学校通信

令和7年 9月30日
東京都立葛飾盲学校長
竹内 大吾
(第6号)

「読書の秋と考える力」

校長 竹内 大吾

暦の上でも、気象学的にも、秋と呼ばれる10月を迎えようとしております。さて、食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋というように様々な言葉があるほど、秋は色々なことを行うのに過ごしやすい季節と言われております。そこで、今回は、読書の秋について、触れていきたいと思っております。

小学校の学習指導要領解説における各学年の読書に関する項目をまとめると、「読書に親しむことで、必要な知識や情報を得ること、または自分の考えを広げたりすること、に役立つことに気付くこと」と記載されています。さらに、文部科学省の文化審議会答申による「これからの時代に求められる国語力について」の中で、“理解する力”について興味深いまとめ方をしており、読書の効果と関わりがあると思っておりますので、以下に紹介していきます。

理解する力は、①考える力②感じる力③想像する力の3つで構成されています。「考える力」は、事実や根拠を正確に見極めたり、非言語情報を言語化したり、相手や場面に応じて分かりやすく発言や文章をまとめたりする力、「感じる力」は、相手の気持ちや文学作品の内容・表現を感じ取ったり、社会的・文化的価値にかかわる感性を自分のものとして受け止め理解したり、言葉の使い方の微妙な意味の違いを感じ取ったりする力、「想像する力」は、経験していないことや現実に想像していないことを推し量ってイメージを思い描いたり、相手の言動・態度から言葉に表れていない思いを察したりする力です。これらの3つの力は、盲学校に通う幼児・児童・生徒たちが、音声言語でコミュニケーションをとる際にも、重要な力となるのではないのでしょうか。

説明文、物語文、随筆など様々な文章に触れることで、子供たちは、内容だけではなく多くのことを吸収していきます。また、書籍への関わり方は、点字本、拡大本、大人による読み聞かせやICT機器の使用による音声言語など、個人に合った色々な形がありますので、まずは、子供たちに、色々な書籍や文章の内容を知りたい、読んでみたいという好奇心をもたせてあげることが、私たち大人の役目だと思います。

秋の夜長に、ぜひ御家庭でも、読書の秋を楽しんでいただければと思います。

「総合防災訓練（保護者引き取り訓練）について」

9月5日(金)に、水害を想定して、保護者引き取り訓練を行いました。

当日は、台風の影響もあり、大雨が降った実際の状況を考えながらの訓練となりました。特に引き取りの時間は、非常に強い雨が降る中となり、保護者の皆様の御協力に感謝いたします。

本校では、河川の氾濫などの際、今回の総合防災訓練(保護者引き取り訓練)で行ったように、早い段階で下校を判断し、保護者の皆様に引き取りをお願いすることになります。今後も、いつ、どれだけの雨が降り、河川の氾濫、土砂災害などの危険に見舞われるかもしれないことが想定されます。本校としても、そのようなときを見据えて準備を整えて参ります。引き続き、保護者の皆様にも御理解と御協力をお願いいたします。

(文責：生活指導主任・主幹教諭 加藤 智行)